



特集

サラブレッドが余生を、おくる楽園—— 養老牧場の整備と運営に励む NPO 法人 ホーストラスト北海道

シリーズ「北海道のジオパーク」② 三笠ジオパーク〔三笠市〕

ほっかいどうの本 『北海道極上キャンプ』 北海道新聞社
『Les roses de mon Jardin バラと暮らす幸せ ロズビィの庭』 クナウマガジン
『キツツキの世界』 共同文化社

特集

サラブレッドが 余生を、おくる楽園——

養老牧場の整備と運営に励む

NPO法人 ホーストラスト北海道



岩内岳の麓、ホーストラスト北海道で余生をおくる馬

厳しい競走の世界での役目を終え、人や荷物を運ぶこともなく、食べる物の心配もなく、豊かな自然に囲まれた静かな牧場で日々を過ごす——。NPO法人ホーストラスト北海道が運営する牧場の、かつての競走馬たちは、ただただのんびりと暮らしています。現役を退いた後、これほど幸せな余生は、人間でもそうそう送れないのでは——とうらやましく思うほどです。そのような“馬の楽園”を2009年に開設した酒井政明代表と創設時からのスタッフの土館麻未さんに話を聞きました。

(文・写真／片山健一 取材日2023年5月26日・27日)



自然に近い飼育法を心掛けている酒井代表

引退した馬たちが 余生をおくる「養老牧場」

日本で競走馬として1年間に生産されるサラブレッドは約7千頭です。2歳でデビューし、長くても7、8歳ごろにはレースから引退します。2021年は、中央競馬と地方競馬を合わせて6369頭が表舞台から去り、そのうち競走成績や血統が優秀な馬1200頭が、セカンドキャリアとして種牡馬や繁殖牝馬になり、約4割の2508頭は馬術競技などの乗用馬になりました。

サラブレッドの寿命は一般的に20代半ばであるため、現役生活にピリオドを打った馬たちが余生を過ごす場所が必要です。それが、ホーストラスト北海道などが運営する「養老牧場」と呼ばれる施設です。

ホーストラスト北海道は、札幌から車で約100分、積丹半島に位置



放牧地内のシェルター前に集まる馬たち

する日本海に面した岩内町の本場と、隣町の共和町にある分場の2カ所に牧場があります。乾燥牧草を作るための草地も含めると総面積は約40畝もあり、サラブレッドを中心に約50頭の馬が暮らしています。

ホーストラスト北海道の発足経緯を代表の酒井政明さんに聞きました。酒井代表は共和町出身で、ホッケイドウ競馬の厩務員などを経て、ニセコ町に観光乗馬施設「ニセコ乗馬ビレッジ」を2002年に開業しました。スタッフの土館麻未さんは福島県の出身で、福島競馬場で誘導馬の世話をした経験が忘れられず、馬に関わる仕事を探し、18年前に酒井さんの観光乗馬施設に就職しました。

その後、2006年に発足した鹿児島県のNPO法人「ホーストラスト」を特集するテレビ番組を見た酒井さんは現地を訪ね、小西英司理事



福島県時代からの付き合いの
ポートブライアンズを引く土館さん



全頭分のバケツにそれぞれの馬に合わせた
配合飼料を用意する

整備し、2013年に本場を今の岩内に移しました。

日本中央競馬会（JRA）では、2018年から「引退競走馬の養老・余生等を支援する事業」として、引退競走馬の環境改善につながる養老牧場の整備などを支援する助成金を交付しています。ホーストラスト北海道は、ゆくゆくは100頭の飼育を目標に、JRAからの助成金を受けて、放牧地を広げ、新しい厩舎を建てるなど牧場の拡張整備を少しずつ進めています。

より自然に近い環境を目指し 昼夜放牧での生活

ホーストラスト北海道では、健康な馬は、年中放牧地で生活する「昼夜放牧」を原則にしています。放牧地内には草地や樹林、水場、砂場があり、雨風や雪をしのぐシェルターという退避小屋も建っています。自然に近い環境で、馬は牧草を食べ、木陰で休み、砂浴びをするなど、一日中、自由気ままに過ごしています。昼夜放牧を行うことで、馬房（二頭ずつ入る部屋）を使う頭数が少なく、済み、寝わたりの交換や掃除をする人件費も削減できるため、1頭当たりの飼育費用が抑えられます。

スタッフが常駐する本場の事務所



検温をして健康状態を確かめる



皮膚病の予防になるブラッシングを丁寧に

周辺には、5鈴ほどの「ケアパドック」があり、足のけがなど、治療中の馬や飲み込む力が衰え特別食が必要な馬、寒さに慣れるまで馬服を着せるなど特別な世話をする馬たちが暮らします。

共和町の分場には、スタッフが常駐しておらず、放牧地のこう配も急なため、比較的若くて元気な馬が暮らしています。若い馬と高齢馬の生活の場を分けることが、けがの予防にもつながっています。

JRA重賞レース勝ち馬である「功劳馬」の所有数は全国一

受け入れる馬の種類や大きさ、競走や乗用など用途は問いませんが、所有権などによって「預託馬」「スポンサーホース」「功劳馬」の3種類に区分されます。

個人、グループ、法人団体などが

所有する「預託馬」は、馬主が月額4万5千円の預託料を支払い、馬主はいつでも牧場内で馬に会うことができます。

「スポンサー

ホース」は馬の里親制度といえるもので、ホーストラストの活動に賛同してくれるスポンサーに、月額1口3千円を負担してもらおう仕組みです。15口で1頭のスポンサーホースを受け入れることができます。スポンサーを募集する馬の情報はホームページなどで随時公開していますが、見ず知らずの馬に、年間3万6千円を支払うスポンサーは多くないため、引き取り希望者にはあらかじめ10口程度のスポンサーを確保してもらい、不足分は馬を指定せずに支援を申し出たスポンサーに支えてもらいます。

コロナ禍以降、一般の見学を中断していますが、スポンサーは牧場の内側で馬と触れ合うことができます。初めて訪れたスポンサーの多くは、スタッフから「中に入って触ってもいいですよ」と言われると、「え、いいんですか?」と驚き、感激するそうです。多い月は約20人の

スポンサーが牧場を訪れます。札幌から毎週のように通うスポンサーもいて、「かわいい。亡くなった自分の馬に似ている」と言いながら、ブラッシングなどをしていてそうです。JRAの重賞レースに勝った馬は「功劳馬」と呼ばれ、10歳以上になると年間24万円の助成金がJRAから支給され、それで足りない分は、スポンサーを募集して賄っています。現在、功劳馬は17頭いて、養老牧場の所有頭数としては日本一です。GIレースの2010年NHKマイルカップなどを勝ち、産駒からも重賞勝ち馬を出したダノンシャンティ(16歳)らが暮らしています。

1999年の福島記念(GIII)勝



乾燥牧草を補充するとすぐに馬が集まってきた

ち馬で、その後福島競馬場の誘導馬を務めたポートブライアンズ(29歳)は、競馬場関係者から「暑さに弱いから、涼しい北海道で引き取って」と誘導馬時代に世話をしていた土館さんに声が掛かりました。手放す関係者にも「頑張った馬にはできればのんびりさせてあげたい」という気持ちがあるほか、引退後の行き先がSNSなどで話題になることもあり、功劳馬はファンが安心できるような行き先を探してもらえることが多いそうです。

人手不足に負けず手厚いケアに奔走するスタッフの一日

飼育馬は多い時に60頭近くいましたが、今は47頭をスタッフ4人で世話をしています。目下の課題は、人手不足とのこと。「馬は増やしたいのですが、世話をする人が足りない」と1頭にかかる時間が少なくなり、質が落ちてしまっています(土館さん)。今春もスタッフ3人が加入しましたが、仕事量の多さに音を上げて2人がすぐに辞めてしまいました。のんびりしているのは馬だけで、世話をするスタッフはせわしなく動き回っています。「視察に来た他の牧場関係者からも『こんなに手を掛けているんですか』と驚かれます」



ケアパドックで耳の中も確認する土館さん

と酒井さんは話します。

早出するスタッフは午前5時ごろから牧場に来て、全頭分の麦やミネラルなどを加えた配合飼料を作り、ケアパドック内から掃除を始めます。午前6時過ぎにはスタッフ総出で、餌やりと馬房の清掃を進めます。1頭ずつ餌を与えている間に検温とブラッシングをして、皮膚病やけがはないかなど健康状態をチェックします。乾燥牧草と飲み水を補給して、次の放牧地へと移動し、同じ作業を繰り返します。

本場が終わると、馬たちの餌をトラックに積んで分場へ向かいます。昼前には分場での作業が終わり、正午から午後1時半までが昼の休憩です。午後からも馬房をこまめに掃除し、餌や牧草、水を補充します。冬場には敷地内の除雪作業も加わります。毎月、馬主やスポンサーに定期連絡を発送する事務作業もあります。

1か月間の体温と体調の変化、「けがをした」「餌を変えた」など近況を記し、写真を添えた報告書作りです。本州在住の馬主やスポンサーはなかなか会いに来られないため、この定期連絡が喜ばれています。体調不良の馬がいる時などは休日返上することもあるそうです。

高齢馬ならではの 診察や治療面での苦労も

高齢馬は、具合が悪くなった時の治療や対応が難しくなります。若い馬なら薬を飲めば治るけども、加齢に伴い免疫力が下がり、致命傷となることがあります。診察も獣医師の往診となるため高額です。手術をする場合には、日高方面の医療施設まで連れて行く間に体力が尽きる可能性もあり判断が難しいそうです。

多くのサラブレッドは、25歳を過ぎると急激に衰えるそうです。「原因が分からず、もう寿命だろうって言われてしまうことも多くて……」。高齢の馬を診てもらえる獣医さんが身近にいてくれたらと思います」と土館さんは言います。現在、30歳を超えている馬は牧場で2頭だけです。亡くなった馬は、酪農学園大学（江別市）に運び、学生の教材を兼ねた検体として提供し、解剖して死

因などを調べてもらいます。腐敗する前に届けなければならぬため、午前中に死亡すると当日、夜の場合は翌日の午前中に、運んで行きます。

1頭でも多く受け入れて 幸せな余生を過ごせるように

乗馬クラブでは、引退した馬の次の行き先について教えないのが、暗黙のルールとなっているそうです。引退後、養老牧場などで過ごせる馬はほんの一握りで、多くは殺処分か、食肉にするための肥育場に行くことになるからです。

土館さんも競馬場で働いていた時にかわいがっていた馬が、しばらくして「サファリパークに行つて、ライオンの餌になったみたい」と聞かされてショックを受けた経験があり、「ちゃんとした受け皿を用意して、引き取りたいと思うようになりました」と言います。

2021年、本場に完成した新厩舎の2階には、放牧場と岩内岳が一望できる「メモリアルホール」が整備されています。祭壇にニンジンや黒糖などが供えられ、壁には亡くなった馬たちの遺影が飾られています。酒井さんは「人知れず亡くなることも多い馬たちを、1頭でも多く受け入れて幸せな余生を過ごさ



馬たちがここで生きた証が残るメモリアルホール

せて、生きた証を残してあげたい」とホーストラスト北海道の使命を語ります。

「全国的に養老牧場は増えてきていますが、多頭数を飼育できる施設は少なく、寿命まで生きられる馬はまだまだ少ない」（酒井さん）のが現実です。そんな中、ここに来られた馬は、献身的なスタッフと、温かい馬主やスポンサーに見守られながら、自然に近い環境で天寿を全うできる幸運な馬たちです。

お問い合わせ先

NPO 法人 ホーストラスト北海道
〒045-0024 岩内郡岩内町字野東463番地1
☎ 0135-62-3686
電子メール unama-pc@hotmail.co.jp
HdA-Trusts https://www.horse-trust-hokkaido.org/

土館さんによる馬のケアの様子をご覧ください。



三笠ジオパーク （三笠市）

（文と写真・片山健一 取材日2023年6月8日・10日）

※季刊アイワード編集委員会のメンバーで、大地の記憶と人々の営みを体感し、学んできました。



さまざまな地層で浮かび上がる一億年の時間旅行

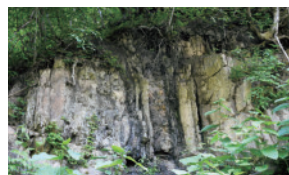
石狩平野の東端にある三笠市は、1868（明治元）年に石炭が発見されたことを契機に開拓が始まり、産地として発展しました。縦方向に大きく曲がって地表に現れた1億年前からの「地層」が、まちの成り立ちと密接に関わっていることから、市内全域がジオパークに指定されています。

東西30キロで一億年の時間旅行

三笠ジオパークは、農業地域の市内西側から始まり、5千万年前に湿原だった地層で採掘する石炭によって栄えた炭鉱市街地、アンモナイトなどが泳いでいた1億年前の海底の地層が見られる東側の山間部へと続く30キロほどの

区間で「一億年時間旅行」ができるエリアです。

北米プレートとユーラシアプレートがぶつかり合うことで、三笠市周辺には



ルート上に「垂直な地層」が露出している野外博物館

横からの圧力が加わり、水平に積み重なっていた地層が垂直になるほど隆起しました。その後、河川などによって浸食されて現れた地層から石炭や化石が見つかりました。

三笠ジオパークの学習拠点・三笠市立博物館に隣接して、約1.2キロの「野外博物館」という散策路が整備されています。ルート上には1億年前の地層と、5千万年前の地層が隣り合う「ひとまたぎ5千万年」と呼ばれる場所があります。地層は通常、時間の経過とともに積み重なるため1億年前と5千万年前の地層が接することはありません。本来あるはずの約5千万年分の地層は、陸地だった期間の風化と浸食によって消失したと考えられています。地層が折れ曲がる褶曲と、約5千万年分の地層の



野外博物館エリアの終点、桂沢神居古潭

消失によって年代が極端に違う地層を「ひとまたぎ」で行き来できるのです。

このほか、野外博物館では、長い年月をかけて硬い岩盤が押し曲げられた「垂直な地層」、斜面に露出した石炭、1920年に建てられ日本遺産「炭鉄港」の構成文化財にもなっている「旧幾春別炭鉱立坑槽」なども見られます。

炭都の記憶が今も色濃く

三笠市で石炭が発見された翌年の1869年に開拓使が置かれ、北海道開拓が始まります。1879年に開山した幌内炭鉱の石炭を本州に移出するため、1882年には三笠市と小樽港を結ぶ日本で3番目の鉄道「幌内鉄道」が敷設されました。1959年には、東洋一と呼ばれた高さ51メートルの奔別炭鉱立坑槽が完成し、大勢の炭鉱労働者が働き、三笠のまちは栄えました。しかし、原油の輸入自由化や相次ぐ坑内事故のあおりを受け、主要な炭鉱が閉山して人口が減少、市内を走る鉄道は廃線となりましたが、市内のいた

る所に開拓と繁栄の名残が点在していることも当地の魅力です。

人気スポットを組み込んだジオツアー

幾春別川上流部には、1957年に完成した桂沢ダムがあります。ダムの堤体建設に使用したコンクリート骨材（砂利や砂）を切り出した原石山では、アンモナイトなどさまざまな生物の化石が産出されています。

また、市内西側にある標高約1441メートルの達布山は、榎本武揚、山縣有朋ら明治政府の要人たちが頂上に登り、幌内鉄道などの開拓計画を作ったといわれています。今では日当たりの良い斜面に、ワイン用のブドウが広く栽培され、上質なワインを生産するワイナリーが立地しています。

三笠市では2013年のジオパーク国内認定後、児童・生徒を対象にした教育旅行を積極的に受け入れ、2021年には過去最多となる約3300人が訪れました。市産業推進部商工観光課の荒井康輔ジオパーク推進係長は「ダムやワイナリーの見学、ラフティングなどを組み込んだ、一般の方が参加できるジオツアーを三笠ジオパーク推進協議会で年間20件以上企画しています。気軽に問い合わせいただければ」と話しています。



アンモナイトを中心に多種多様な化石が展示されている市立博物館



かつて東洋一と呼ばれた旧奔別炭鉱の立坑槽

ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

北海道極上キャンプ

978-4-86721-097-0

北海道新聞社 編
A5判 216頁 1870円
北海道新聞社 発行 011・210・5744



ここ数年のキャンプブームは一過性のものでなく、すっかりと幅広い層に定着しました。家族や友人とだけではなく、ソロキャンプなど楽しみ方はキャンプそれぞれに多様化しています。

本書は「北海道でのキャンプはすごい！」ということを伝えたい思いから作られています。富良野の麓、空気の澄んだ大自然と灯りのない環境にある「星に手のとどく丘キャンプ場」や山と空に囲まれた湖に朝日が昇る絶景の「美瑛キャンプ場」など、雄大な景色の写真とキャンプパーへのインタビューから、どんなキャンプができるのか具体的にイメージさせてくれます。

また、キャンプを楽しむ上で欠かせないキャンプ道具や、キャンプ飯などの情報も多数収録されています。巻末には北海道内の各地にある直売所や市場の情報まで紹介されていて、北海道に焦点を当てた1ランク上の極上キャンプ本です。北海道でのキャンプに興味がある人に、ぜひとも読んで欲しい1冊です。

(製本部 齋藤洋志)

Les roses de mon Jardin

978-4-911017-00-5

バラと暮らす幸せ ロズビィの庭
ロズビィ・トモ子 (庄司 友子) 著
B5変型判 88頁 1760円
クナウマガジン 発行 0155・38・4188



著者である恵庭市在住のロズビィ・トモ子さんは、自宅の庭にたった1本の苗を植えたことがきっかけで、バラに魅せられた人生がスタートしました。30年前から庭造りをしてきた著者は、20年ほど前、今は亡き夫で株式会社アレフの創業者庄司昭夫氏の勧めによってエコロジーターマガーデン・ネーりん村の銀河庭園内に「ロズビィの庭」を造設しました。本書は「ロズビィの庭」やプライベートガーデン、バラ中心の著者の生活について、バラの魅力や著者の想いが美しい写真と文章によって咲き誇るフォトエッセイです。

育てられている美しいバラは全て無農薬です。色とりどりのバラは、見た目や香りの素晴らしさはもちろんのこと、色や香りをそのままに閉じ込めたジャムやシロップを手作りしており、食用としても楽しむことができます。

バラとアート作品との共演、庭に集まる野生動物や四季折々の庭の表情なども掲載された1冊となっていますので、本書と共に「ロズビィの庭」に足を運んでみてはいかがでしょうか。

(フリエイション部 高橋知男)

キツツキの世界

978-4-8739-376-6

内海 千穂 著
A4判 112頁 3080円
共同文化社 発行 011・251・8078



キツツキが木を突く音は聞いたことのある人でも、その姿を実際に見たことがある人は少ないのではないだろうか。本書は、北海道に生息するキツツキを長きにわたり撮影してきた著者による写真集です。

フィルムカメラとデジタルカメラで撮影されたキツツキたちは、いずれも鮮やかな色味で再現され、寄りや引きの写真、連写写真の組み合わせにより、躍動感溢れる姿が記録されています。

また、様々な種類・季節・場面面にコメントが添えられているので、普段は目にするのできない貴重なキツツキの生態を、わかりやすく垣間見ることが出来ます。

さらに本書では、キツツキの誕生、採餌から天敵との攻防までも解説されており、キツツキだけではなく、その周りの生態系にも触れられています。「本書が環境や野生生物への関心への一助になれば」という著者の思いが詰まっています。

(北海道営業部 五十川開莉)

新刊情報

書名の下に数字は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

妄想 radio（レディオ）

桜木 紫乃 著 978-4-86721-088-8
四六判 224頁 1650円

北海道キャンプ場&コテージガイド

2023.24 978-4-86721-056-6
花岡 俊吾 著 A5変型判 336頁 1980円

拓銀 敗戦の記録 破綻20年後の証言

ベーパーバック版 978-4-86721-086-7
北海道新聞社 編 四六判 268頁 1980円

決定版 北海道道の駅ガイド

2023.24 978-4-86721-096-3
花岡 俊吾 著 A5変型判 272頁 1870円

北海道極上キャン

北海道新聞社 編 978-4-86721-097-0
A5判 216頁 1870円

北海道 菜園レシピ

978-4-86721-099-4
B5判 128頁 1980円
範囲 有紀 著／保莉 徹也 写真

写真で見る世界の路面電車

978-4-86721-074-4
B5判 352頁 3630円
杉田 紀雄 著

北海道新聞社

〒061 札幌市中央区大通西3-6
☎011・210・5744

心の決めたままに

母で紡ぐわたしの半生記 978-4-906740-54-3
浅井 洋子 著 A5判 202頁 1760円

北海道 大地の理（ことわり）

北の鼓動に耳を澄ませて 978-4-906740-55-0
秋野 禎木 著 四六判 120頁 1430円

亜細亜社

〒0837 札幌市中央区南2条西5丁目
☎011・221・5396

Les roses de mon Jardin バラと暮らす幸せ ロズビイの庭

978-4-911017-00-5
ロズビイ・トモ子（庄司 友子）著 B5変型判 88頁 1760円

写真集 十勝・帯広 昭和の記憶

978-4-911017-01-2
「十勝・帯広 昭和の記憶」を出版
する会 著 A4判 280頁 11000円

クナウマガジン

〒0046 札幌市西16条北1丁目25
☎0155・38・4188

いきている ただそれだけで

978-4-89115-420-2
あおき かなえ さく／とぬまりさ え B5変型判 36頁 1650円

彫刻60年 鈴木吾郎 悠久を舞う

978-4-89115-423-3
本郷新記念札幌彫刻美術館 編 A4変型判 111頁 2200円

中西出版

〒07083 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
☎011・785・0737

ファームマネジメント

978-4-86453-091-0
齊藤 義崇 著 B5判 108頁 1466円

北海道協同組合通信社

〒0005 札幌市中央区北5条西14丁目
☎011・231・5261

十勝の戦時中・戦後の緊急開拓入植

978-4-8328-2201-3
加藤 公夫 編 四六判 280頁 2420円

北海道出版企画センター

〒001018 札幌市北区北18条西6丁目2-47
☎011・737・1755

ミャンマーの民主化を求めて

978-4-90281-47-0
立ち上がる在日ミャンマー人と日本の市民社会
玄 武岩・藤野 陽平・下郷 沙季 編著 A5判 104頁 1210円

海のアイヌの丸木舟

978-4-90281-53-1
ラポロアイヌネイションの闘い
青柳 絵梨子 著 四六判 360頁 2640円

寿郎社

〒007 札幌市北区北7条西2丁目
☎011・708・8565

アイヌと松浦武四郎の蝦夷地友情探査物語

978-4-434-32219-8
大島 和子 著 四六判 240頁 1650円

柏叢舎

〒0002 札幌市中央区北2条西3丁目
☎011・219・1211

英語再習法

978-4-8739-381-6
原子 智樹 著 四六変型判 212頁 715円

存在の淋しさ

978-4-8739-383-0
梅田 滋 著 A5判 472頁 2200円

有島武郎読書ノート

ウィスキーと風の味

978-4-8739-385-4
佐藤 茂生 著 四六判 168頁 1870円

ゲノム編集技術と社会をつなぐ試み

978-4-8739-382-3
海外のコミュニケーション活動
山口 富子 著 A5判 60頁 1100円

爪句@天空に記す自分史

978-4-8739-384-7
青木 曲直 著 100×74mm 232頁 500円

学校の夢 へつぽこ教師からの出発

978-4-8739-387-8
高向 よしのぶ 著 四六判 324頁 1500円

絵本作家 降矢なな

978-4-8739-386-1
MIMosele 編 A4変型判 144頁 2750円

共同文化社

〒0033 札幌市中央区北3条東5丁目
☎011・251・8078

紙の表とこ

今泉 道子 木版画 38センチ×49.5センチ

札幌の中心部から車で30分程北に行ったところに敷地面積25・4畝の広大な公園があります。百合が原公園です。それぞれテーマを持った花壇や大きな温室が季節ごとに多種多様な花々を見せてくれます。

その名の通り百合は約100種類、花壇に整然と植えられています。乙女百合だけは自然な緑の草はらの中で楚々と咲いています。つぼみはエンジ色に近い赤で、それが開くと透明感のある薄桃色になるのです。まるで自生していたかのように風に揺れて咲く乙女百合が、夏の暑さを忘れさせてくれます。

GEM木版画会 会員 札幌市在住



※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL <https://iword.co.jp>